

# 1657年 死者10万人、明暦の大火 江戸城焼失

復元模型を横に記者会見する「江戸城天守を再建する会」の小竹直隆理事長ら＝2013年10月25日、東京都庁で



「江戸城天守を再建する会」の太田資晴会長 ▲松沢成文議員

松沢成文参院議員「木造で完全復元」

## 天守閣の再建はなるか



▲CGで再現された江戸城天守閣(江戸城天守を再建する会提供) ※近畿日本ツーリストは、眼鏡型の「ウェアラブル端末」をかけるとCGで再現された江戸城を見ることができ「3Dツアー」を行っている。皇居の江戸城があった場所で「スマートグラス」を装着すると、目の前に天守閣が現れ好評を博している。



黒い城 復元(原)を目指す江戸城は3代将軍家光が造った5層6階の城。初代の家康は天下普請により松の廊下跡付近に築城した。最近その古地図が発見された。2代秀忠がその少し北の方に造り、3代家光が現在の天守閣跡に1638(寛永15)年に造営した。家康は白い城が好みだったといわれるが、3代目は違ったようだ。黒い壁は「黒チャン」という植物性の油を固着材とする技法。また軽い銅製の瓦を使用していて、耐震性に優れている。当時のハイテクを駆使した城だった。銅は錆びると緑に変色していく。復元されれば皇居の森やビル街とマッチするだろう。そのCG写真は松沢氏が上梓した「始動!江戸城天守閣再建計画」(ワニブックスPLUS新書)に掲載されている。

1651(寛永18)年、徳川3代将軍家光が没し、跡を継いだ家綱はまだ満10歳だった。いきなり由井正雪らによる倒幕未遂事件「慶安の変」が起き、1657(明暦3)年には大火事で江戸城の豪華な天守閣は焼失してしまった。それ以来天守閣は再建されていないが、今世紀に入って再建運動が活発になっている。(清水幸仁)

別名「振袖火事」 明暦の大火は明和、文化の大火とともに「江戸三大大火」といわれる。被害はその中でも一番大きく、当時の江戸の大半を焼き、被害者は約10万人に及んだとされる。別名「振袖火事」と呼ばれ、火元は本郷丸山の「本妙寺」付近。3人の女が法会のために振袖を焼いたという説や、死んだ年頃の娘の振袖を買ったとある。天守閣も焼失してしまっただ。 ところで、東京・三田にある港区立港郷土資料館に展示してある焼失地図によると、天守閣や本丸、二の丸、大奥

海抜5m散歩 娘が相次いで死に、縁起が悪いと燃やしたら本堂に炎が移ったという説など諸説ある。 旧暦1月18日(新暦なら3月2日)の季節特有の強い偏西風が被害を大きくした。そして江戸城に火の手は及び、天守閣も焼失してしまっただ。 ところで、東京・三田にある港区立港郷土資料館に展示してある焼失地図によると、天守閣や本丸、二の丸、大奥

保科正之が「まずは被災者の救済、復興を」以来360年 などが焼けてしまったのだ。この企画第29回で紹介したように本丸と西の丸は違う台地(舌状)であり、間の乾燥と蓮池溝が火の手を阻んだのだ。天守閣が西の丸にあればよかったのだが。 天守台が残る皇居の東御苑向こうに高層ビル群。ここで歴史はつづられたのだ、と実感した。 幼い将軍家綱を補佐した父家光の異母弟・保科正之は「天守再建よりもまずは大火の後始末。被災者の救済と復興を」と主張し、天守再建は見送られた。それ以来360年。今年(奇しくも同じ干支の「丁酉」だ。 筆者も最近までは保科正之が言ったように、天守閣を建てる余裕があるなら違ってくるにお金は使うべきだと思っていたが、東御苑を訪れてみて気持ちが変わった。 外国人観光客は「なぜお城の建物は無いの?」と思っているに違いないと思った。

Table listing existing castles and those destroyed in the Great Fire of Meireki. Includes names like Matsuyama Castle, Utsunomiya Castle, etc.

保科正之が「まずは被災者の救済、復興を」以来360年

道灌子孫・太田資晴氏「民間の浄財で」 元神奈川県知事の松沢成文参院議員。まず江戸城再建を目指す理由を話した。 「五輪が終わった後の東京の反動、景気停滞が心配です。東京の歴史的な目玉は浅草寺くらいしかありません。何かランドマークを造らなければ」。そこで天守閣の再建を訴え始めたという。 「家光の城は戦争の終わって、平和を意識したものです」を言うのではない。 費用は約400億円。コンクリートではなく木造で完全復元を目指す。もちろん税金を